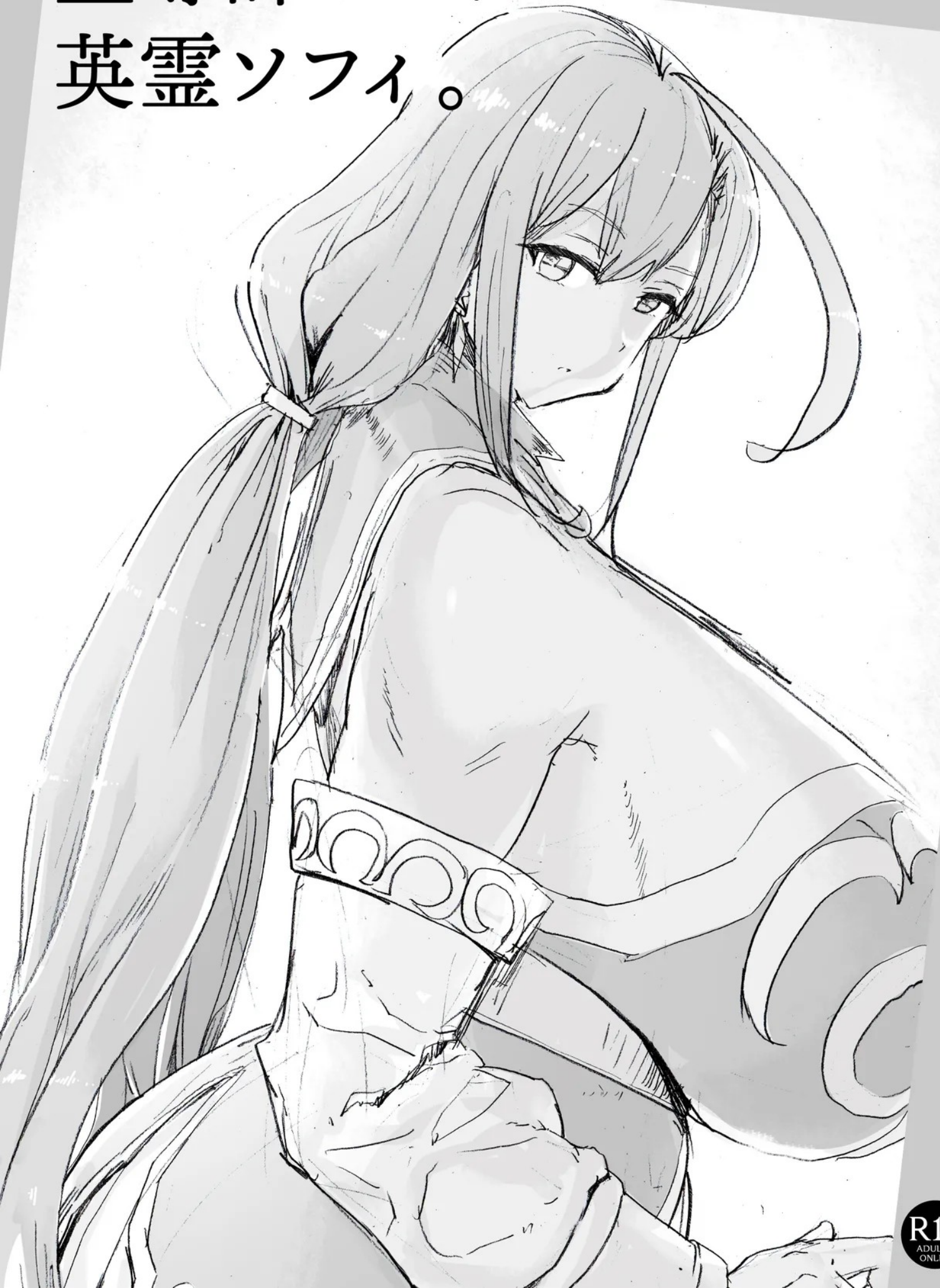


# 靈導師ミルトと 英靈ソフィ。



とある奥深い森の中

この少年は  
霊導師ミルト

女装が趣味というちょっと  
変わった少年である

べつにいいでしょ

ここだ…

間違いない  
英霊の気だ！

強い霊気を  
感じる…

カ  
カ

よし!  
今度こそ  
成功させるぞ……!!

…神々の時代を  
生きし者よ…

我が前に現れ  
その力を授けたまえ…

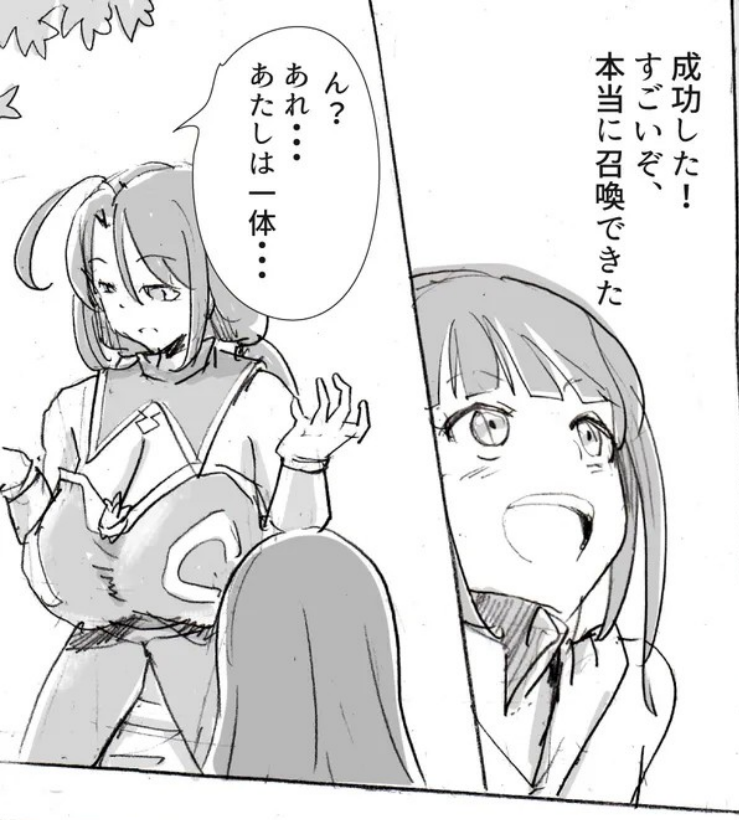
靈導師とは古の英靈を  
現世に召喚するという  
特別な力を持った者である

来たっ……!!

強いっ!  
なんて、大きい靈気だ!!







ん？  
あれ……  
あたしは一体……

成功した！  
すごいぞ、  
本当に召喚できた



ズン

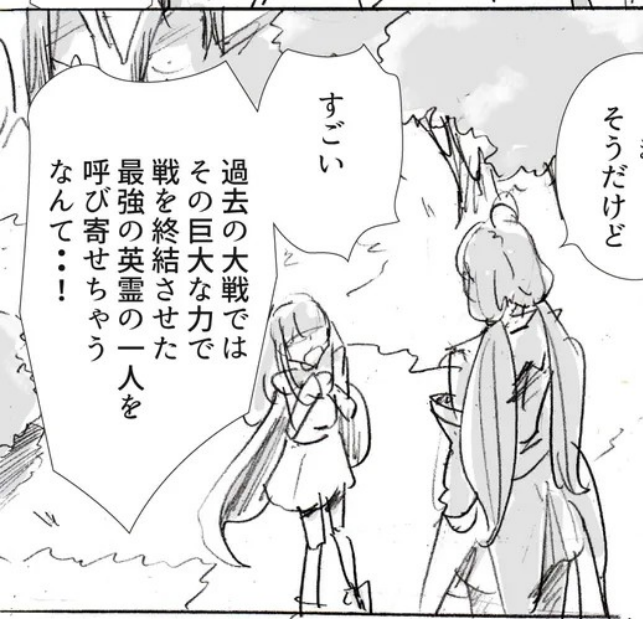


あなたは  
英霊  
ソフィー様では！

……その装いと  
雰囲気  
古代英霊図鑑で  
見ました！



もしかして  
召喚されちゃったのかしら



過去の大战では  
その巨大な力で  
戦を終結させた  
最強の英霊の一人を  
呼び寄せちゃう  
なんて……！

すごい

……まー  
そうだけど

ねえ  
君があたしを  
召喚してくれたの？



いや、  
すごいです  
夢みたいです！

まー  
昔の話よ  
むかししの

そして英霊ソフィーと  
靈導師匠ミルトの  
共同生活が始まる

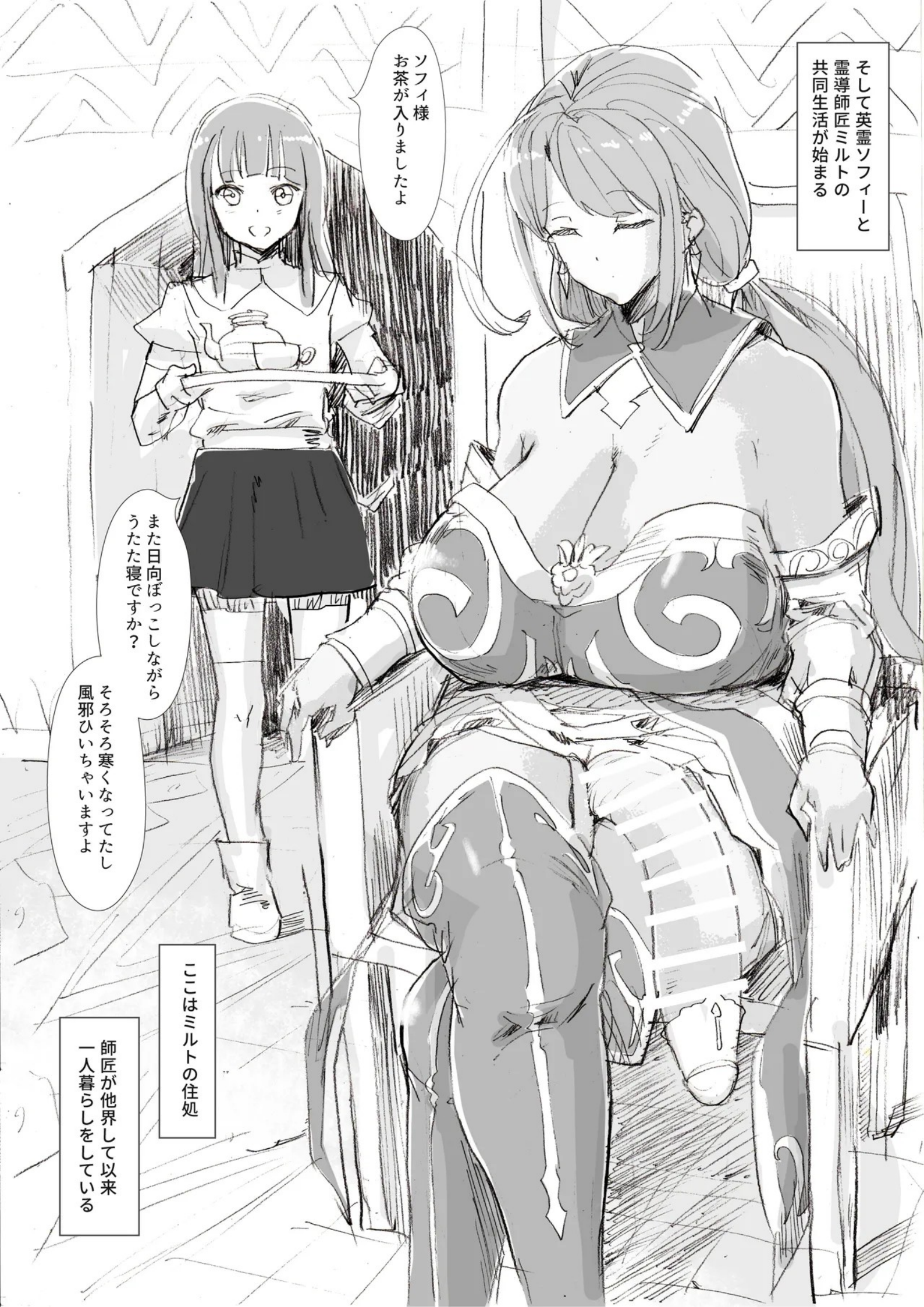
ソフィー様  
お茶が入りましたよ

また日向ぼっこしながら  
うたた寝ですか？

そろそろ寒くなつてたし  
風邪ひいちゃいますよ

ここはミルトの住処

師匠が他界して以来  
一人暮らしをしている





…かかか

じゃ  
しちやおつか…

お茶もいいけど

ちよつと  
その前に…

英霊ソフィ  
両性具有の英霊で  
最強の英霊の一人  
逞しい巨根の持ち主でもある

英霊として現世に現れても  
その精力は衰えていない



あごが  
ちよつと痛いよ……



最初は困惑したものの  
この淫らな展開にも  
慣れはじめたミルト

これがソフイ様の  
お〇んちん

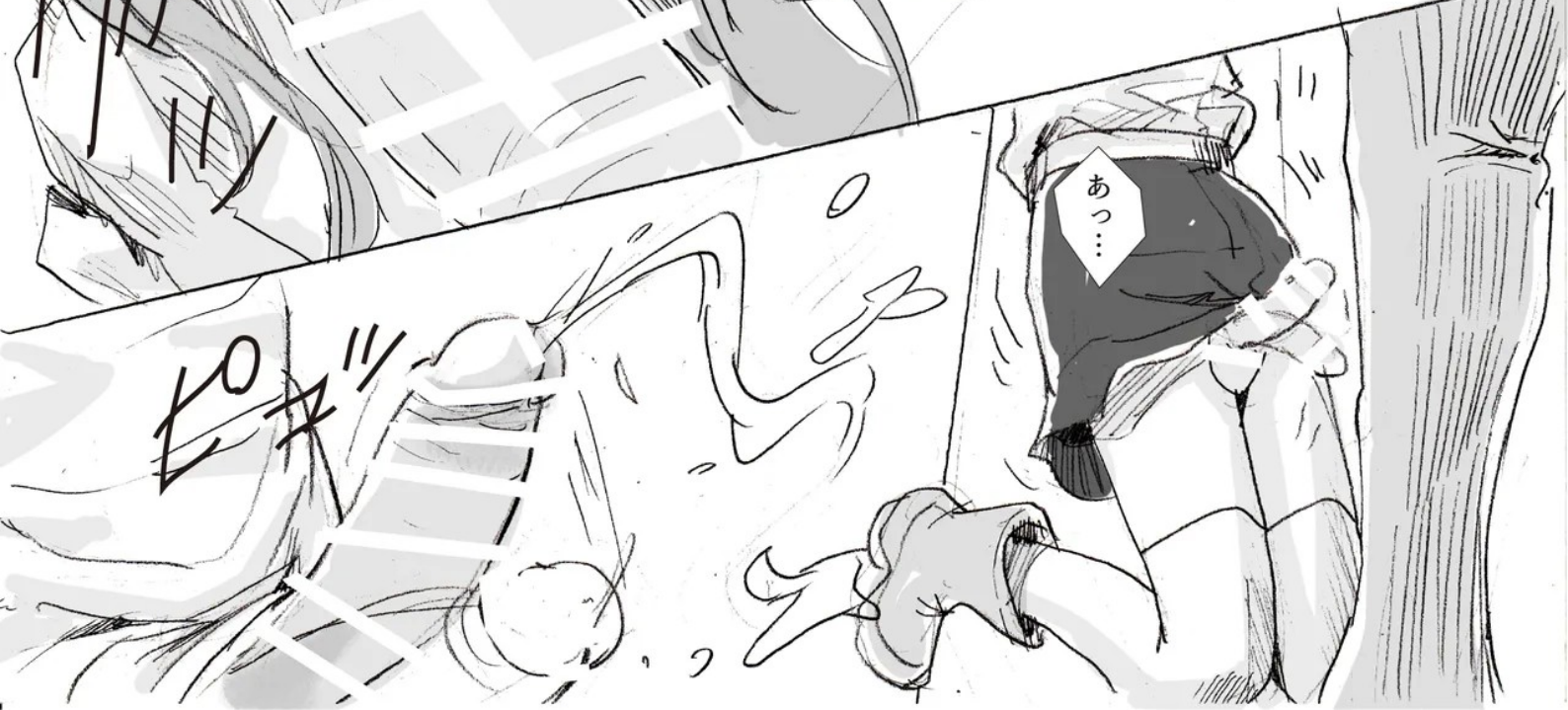


でももう少し  
強めにやって  
ほしいかも……

大分上手に  
なってきたわね

こんな  
感じで……

すごい  
相変わらず  
おっきい……!!



あ……

LO #!!!

もう……くわえた  
だけでイっちゃう  
なんて

ミルトは本当  
変態くんよね…

…はい  
では失礼します

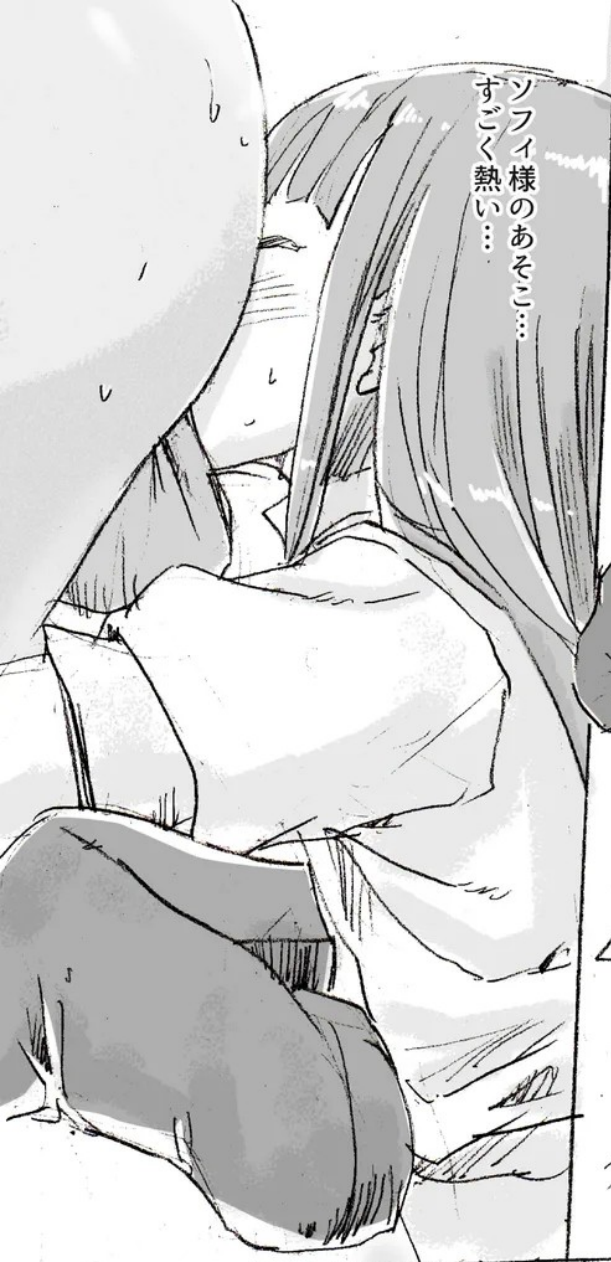
ソフィ様の  
おつきいお尻

じゃあ  
ごちもお願ひね♡

すごく深くて  
奥が見えない…

あお

タノシ



ソフィ様のあそこ…  
すごく熱い…



はい

早く  
いつもみたいに  
ぺろぺろして♡



ギョ



ヒッ  
ッ



あ  
あ

お尻  
入れちゃうね…

ムムム  
ムムム

お尻  
お尻

お尻



あらあら

もうおしまいかしら

はーっ  
はーっ

でもそんな  
格好してると

また入れたく  
なっちゃうわね

ソ：ソフィ様  
ちよっと待って下さい

たっぷり中に  
流し込んであげるわね

霊力や魔力だけでなく  
腕力や体力においても  
完全にソフィが  
上回っているため

一方的にペースをもって  
いかれてしまう

狭くて  
気持ち良いい...

あーん..  
イクっ.....!!



また別の  
ある日

……

は



うーん……

あの正面の  
山のあたり  
かしら……？

そうなんです  
悪い靈気が  
溜まっている感じが  
するんです

あの空域から  
魔界のものが  
生み出されているっ  
ていう噂も  
あるくらいなので……

確かに  
邪悪な気が少し  
流れ出ている  
みたい……

ソフイ様  
あの空域をあなたの力で  
浄化していただけ  
ませんか？

僕があなたを召喚したのも  
これが目的なんです！

この世界には  
こういう場所が  
まだまだたくさん  
あるみたいなので

英霊の力をお借りして  
世界から悪の気を  
浄化したいんです！

まーいいわよ  
ここはあなたの  
真つ直ぐな気持ちに  
答えてあげましょう

要はあの瘴気を  
空間の歪みごと  
消し去っちゃえば  
いいんでしょ…？

顕現せよ…！

聖剣  
レーヴァテイン…！！

レ…  
レーヴァテイン…！！

あの大战で  
残酷な魔王軍を  
僅か三振で壊滅させたという  
伝説の聖剣ですね！

ちよつと  
離れててね

はいっ！

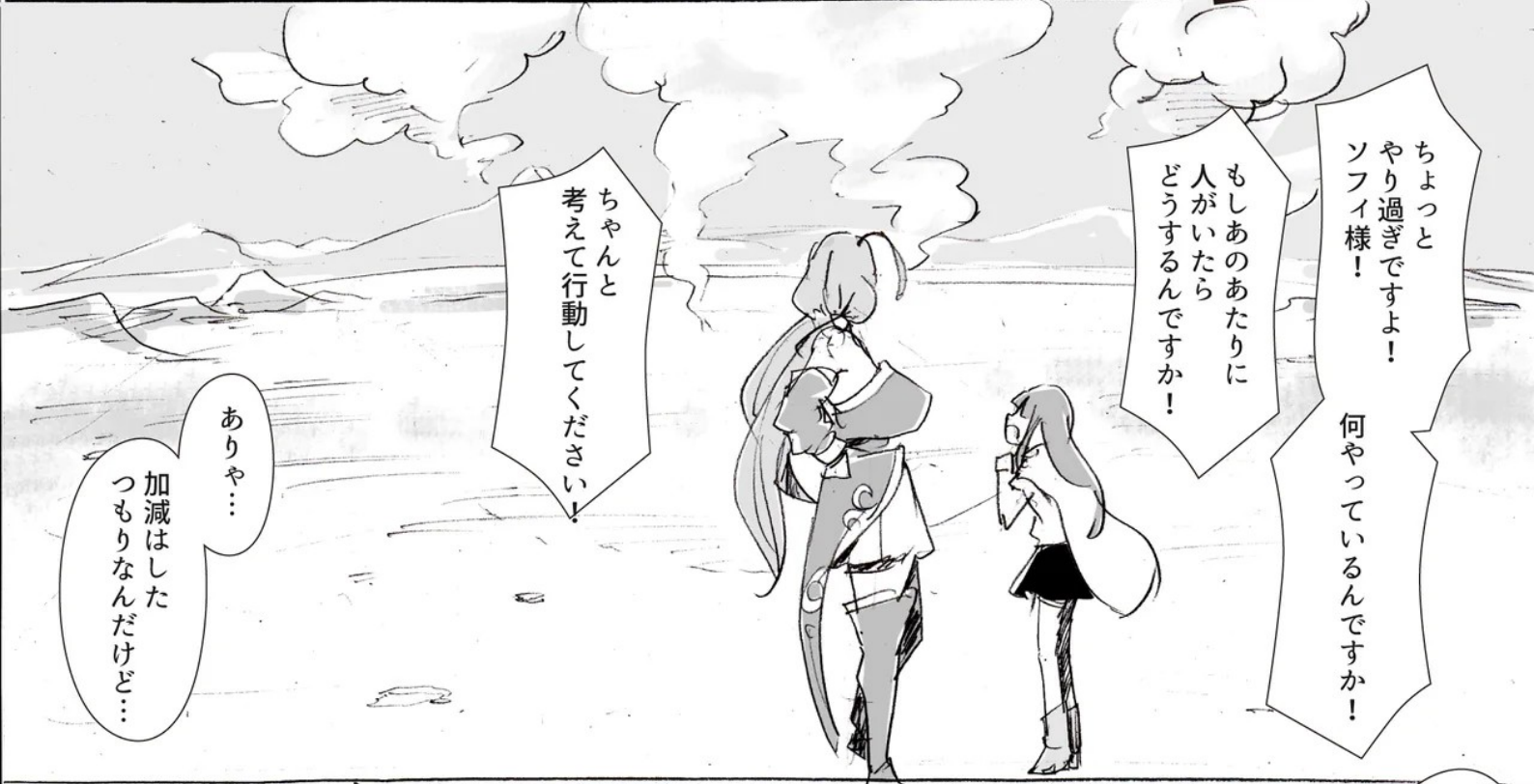
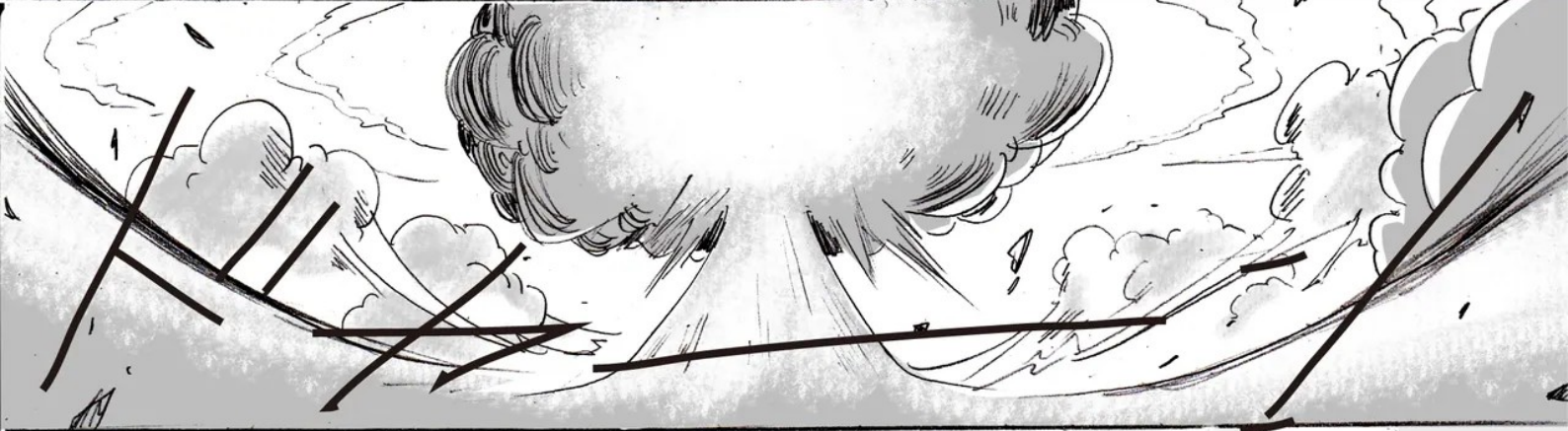
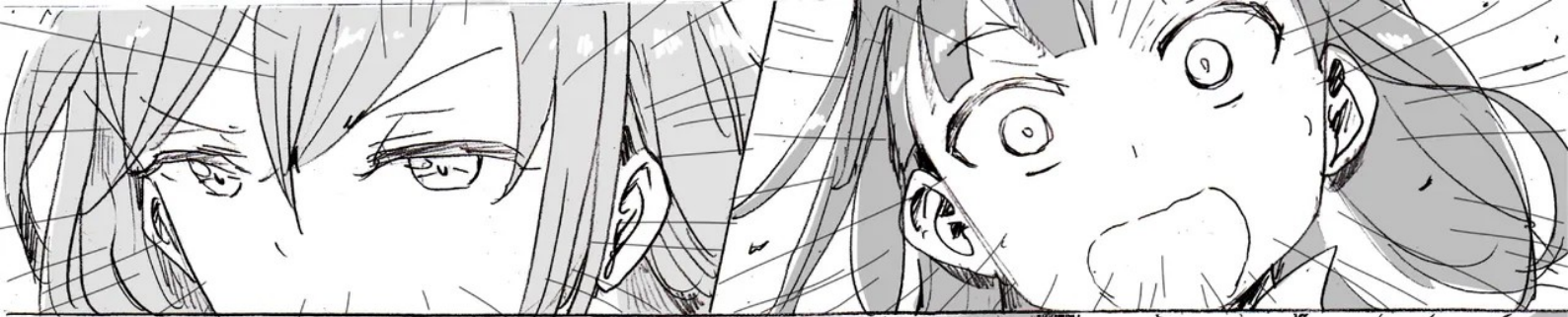
……って  
いや、いや……！  
ちよつと待っててください  
ソフイ様……！

あんな小さな  
瘴気の溜まり場に  
その聖剣を  
振り回すのは  
いくらなんでも……

消し飛びな……

さっ……！





ちよっと  
やり過ぎですよ！  
ソフイ様！

何やっているんですか！

もしあのあたりに  
人がいたら  
どうするんですか！

ちやんと  
考えて行動してください！

ありや…

加減はした  
つもりなだけで…

まあまあ  
小さいことは  
気にしない気にしない

でももう  
悪の気はもう  
感じないでしょ

大丈夫よ  
あの空域に  
人間の生気は無かったわ

本当ですか？

さあ次  
次！

こうして二人の  
浄化の旅路は  
始まるのだった



おまけ

なるほど…  
となり街までは  
この道をいけば  
いいのか

よし！

ソフイ様  
起きてますか？

あらあら  
寝込みを襲おうするなんて  
ミルトくんも  
積極的になったものね

いいわよ  
今日も気がすむまで  
いちやいちゃしましよ

そうではなくて  
ですね…

隣町まで行って  
みようかと思うんですよ  
悪霊の話とかがないか  
探りに行きたいんです

まあそれはいいんだけどー

その前にやること  
あるんじゃない



ソフイ様  
もういつちやいそうです

相変わらず  
早いわね

でもいいよ  
中にだしちゃって

あっ...!だめ、そこを  
刺激されちゃうと





ソフイ様  
すごい出てますよ

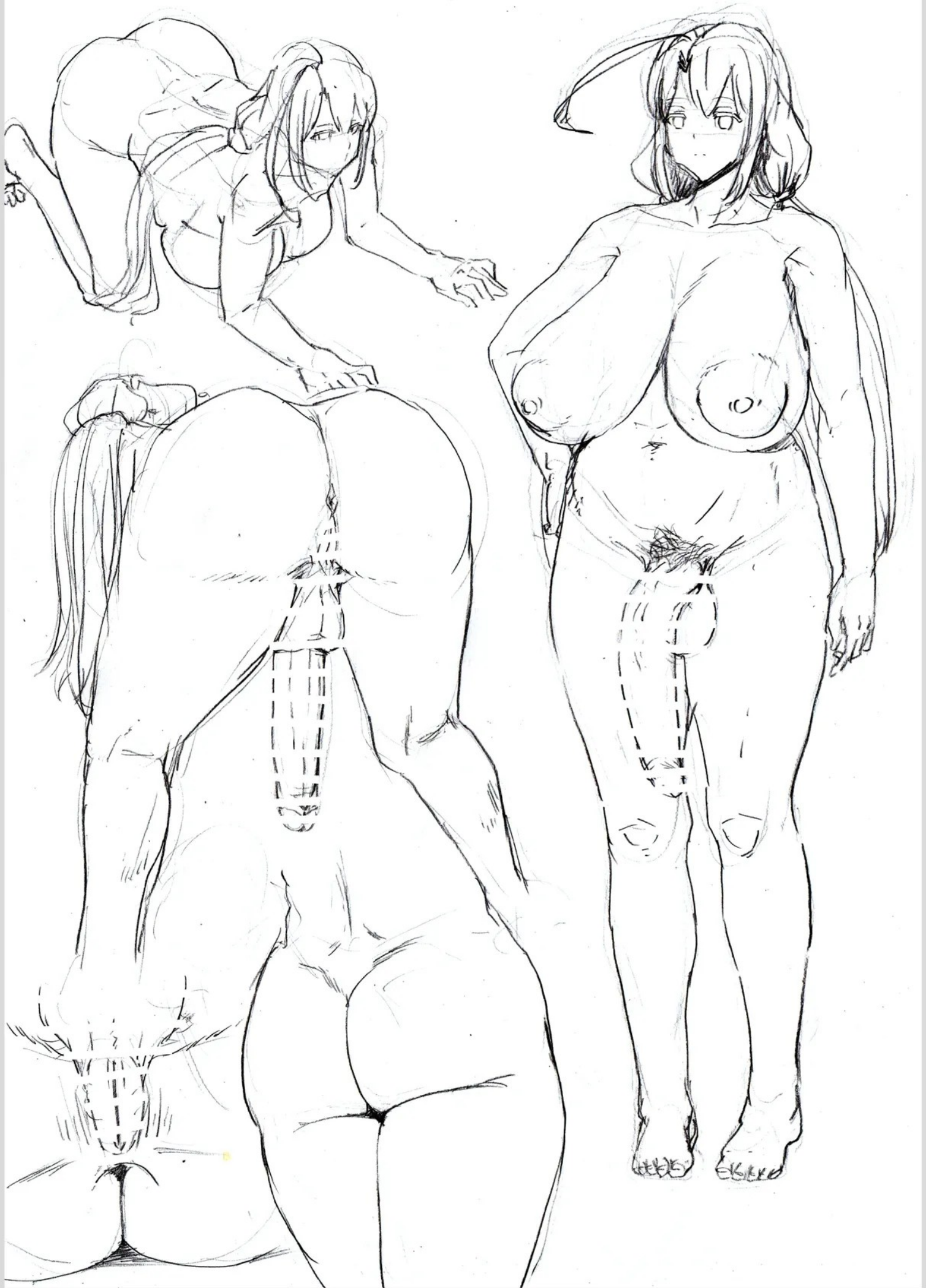
いきそうといいながら  
一番気持ちいい所を  
攻めてくるなんで  
なかなかやるわね...

んふふ...  
大分大分上手に  
なってきたわね

ここが気持ちいいんですね  
ソフイ様!

大分渡り合えるように  
なってきたミルト少年だった





【奥付】

発行元：ピコピコサーベル

発行日：Summer 2025



18歳未満の閲覧及び、  
無断転載・複製・  
webアップロードを禁じます。

この作品はフィクションであり、  
実在する人物・地名・団体とは  
一切関係ありません。

